

# 「江戸期八戸の日記集」 「八戸藩の武芸」刊行！

市民の皆さんに大変なご好評を頂いております「八戸の歴史双書シリーズ」の最新版が発刊されました！今回の歴史双書も八戸の歴史について親しみやすい内容になっております。「復刻シリーズ」では江戸時代の八戸地方について記された日記を解説して復刻いたしました。「読み物シリーズ」では八戸の伝統的な武術について分かりやすく解説しています。

伊吉書店西店 (0178-28-8211)  
カネイリ番町店 (0178-46-1812)  
木村書店本店 (0178-24-3366) など  
八戸市内の書店で絶賛発売中です！  
(八戸市外の方でも購入可)



## 「江戸期八戸の日記集」

(定価2,900円/税込)

江戸時代の八戸を語る3つの貴重な日記を掲載しました！

盛岡藩日記(雑書)  
正保元年(1644)から寛文6年(1666)までの八戸関係記事をピックアップして収録しました。当時の八戸の町づくりの様子など、八戸藩が出来る前後の八戸がどのような様子であったか日記を通して知ることができます。  
例えば国宝の鎧が納められている榊引八幡宮の神事の記述、白銀でおっとせいが見つかった話など、面白い出来事が出てきます。  
川勝家日記  
宝暦年間(1751~1764)、八戸で活躍した思想家・安藤昌益(1703~1762)と同じ時代を生きた八戸藩士の記録です。  
正月の行事や婚姻、現在の三社大祭の元となった法霊祭礼の記述のほか、昌益の弟子・神山仙庵(1723~1783)に治療を受けたことなどが記されています。神山仙庵は八戸藩医を努めていた人で、川勝家の人々が病気になるによく診てもらったようです。  
淵沢家日記  
文政~天保年間(1818~1844)、百姓一揆の時代をみつめた八戸藩領・軽米町の農民の記録です。八戸の村の様子や農民の生活が手に取るように分かります。  
淵沢家では、農業の他に酒造りも行っていました。そのため、日記を読むとお酒の出来ぐあいや当時の値段などお酒に関する記述が数多く見られます。

## 八戸藩の武芸

(定価1,300円/税込)

八戸藩の武芸の流派は「甲州流軍学」といいますが、八戸藩に取り入れられたその裏には、ある藩士の重大な決意がありました。その藩士の名は中里覚右衛門正康。その流儀を伝授するために、なんと元々いた妻を離縁して軍学師範の娘と結婚してまでも、武芸を極めようとした。この本の冒頭には歴代の八戸のお殿様がどんな武芸にたしなんできたか詳しく記されています。例えば幕末に薩摩(現在の鹿児島県)からやってきた九代目の藩主信順公は武芸の訓練に西洋式を取り入れたりしています。その他に「御家流」を中心に、神道無念流など八戸藩の多様な武芸を紹介しています。ちなみに、大河ドラマで話題になっている新撰組の芹沢鴨がこの神道無念流でした。また、北村益(1868~1951)の『八戸武芸名人録』には、梁田(やなだ)平次をはじめとした武芸者の逸話を掲載されています。梁田平次は2代目藩主南部直政(1661~1699)に取り立てられた居合いの名人です。著者の太田尚充氏は、元東北女子大学教授でこれまで八戸藩・津軽藩の武芸に関する様々な論文を執筆しています。

お問い合わせは八戸市史編纂室まで！(0178-73-3234)